

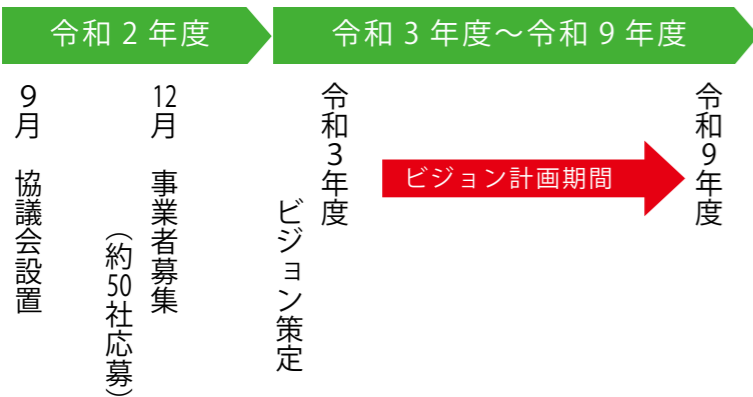


スマートシティ推進協議会委員の皆さん（令和2年12月撮影）

○スマートシティ推進協議会での主な意見

- ・「誰ひとり置き去りにしない」地域社会の実現が重要。
- ・デジタル技術の導入だけでなく、暮らしを中心とした市民目線での検討が必要。
- ・さまざまなデータを蓄積、連携させて新たな価値を創造する「データ駆動型社会」の実現が重要。
- ・デジタル化を支える人材の育成が重要。
- ・官民目線でなく市民目線での取り組みが重要。
- ・データの利活用を行うために、市民同意を前提とした取り組みが重要。

○ビジョン策定スケジュール



スマートシティの取組を行う12の領域



事業者との連携を踏まえ、本市におけるスマートシティの方向性や具体的な取り組みを示す「山口市スマートシティ推進ビジョン」を令和3年度に策定する予定です。そして、スマートシティの取り組みを通じて、あらゆる地域で健康で安心して住み続けられる地域社会の実現を目指します。次ページからは、本市で実際に進んでいるスマートシティの検討の方向性と取り組み事例の一部をご紹介します。

形成します。同時に山口都市核、小郡都市核を中心とした都市拠点においてもデジタル化を進め、各地域のネットワーク化と併せて高次の都市機能を広域に提供するスマートタウンの形成を図り、市全体でスマートシティを構築していく考えです。

すでに始まっている
官民一体での取り組み

こうした考えのもと、本市では令和2年9月に、学識経験者を始め、産業や交通、医療、地域づくり、子育て等の各専門分野から15人の委員で構成する「山口市スマートシティ推進協議会」を立

ち上げ、スマートシティの推進に向けてさまざまな取り組みの検討を進めています。また、生活全般にわたる12の領域で、本市においてスマートシティの取り組みを行う事業者の募集を行いました。こうした推進協議会での検討や

スマートシティは デジタルを活用した 安心して住み続けられる 楽しいまちです

☎ スマートシティ推進室 083-934-2728
情報企画課 083-934-2991

デジタル社会の到来に
対応したまちづくり

Society 5.0時代に向けて、社会全体でデジタル化の進展が加速しています。本市では、医療介護、子育て、防災、交通、環境など、生活全般のあらゆる領域で、ICT（情報通信技術）などのデジタル技術を活用して、市民の皆さん一人ひとりの暮らしの向上を図り、安心して住み続けられるまちづくりを進める「山口モデル」のスマートシティ、いわば、スマート「ライフ」シティの実現を目指しています。

そのために、市民の皆さんを始めとしたさまざまな方の声を伺いながら、行政だけでなく、地域や事業者、大学、研究機関等との連携を図り、その技術や知恵を結集した取り組みを進めます。また、21地域の地域拠点を中心として、それぞれの地域課題に応じたデジタル技術を活用し、地域におけるデジタル化を進めることで、あらゆる地域に安心して住み続けられる、いわゆるスマートコミュニティを

本市のスマートシティの考え方

スマートタウン



スマートコミュニティ



03 地場産業のDX促進



①産業交流拠点施設内に整備する産業交流スペース「Megriba」
 ②やまぐち創業応援スペース「mirai365」
 ③デジタル化を支える人材を育成する「デジタルハリウッド STUDIO 山口」

本市では、市内に勤める方の通勤や労働時間の短縮、企業の生産性の向上、デジタル時代の新事業展開等に向けた環境整備の支援に取り組むなど、DXを促進しています。今後は、テレワーク環境の整備支援、オンライン上での人材確保に向けた支援、デジタル化を支える人材の育成に向けた支援を行うなど、令和3年4月にオープンする産業交流拠点施設をはじめ、県や民間事業者等とも連携して、市内企業の成長促進を図っていきます。

01 移動が便利なまちへ

本市では、子どもや高齢者などあらゆる世代の日常の移動や、観光客の快適な移動の確保に向けて、マイカー以外の交通手段を切れ目なくつなぎ、便利に移動できるまちづくりを進めています。こうした中、県と連携して、まずは新山口駅と湯田温泉間において円滑な移動を可能とする体系づくりや、料金や時間がひと目で分かるMaas（マース）用アプリ「らやま」の運用、さらにきめ細やかな移動を補うシェアサイクルや超小型モビリティ等の貸出などの実証事業を令和3年度も引き続き行います。併せて、観光施設や飲食店等の情報とも連動させ、移動が地域経済の活性化にも結びつく仕組みの検討やコミュニティタクシーの更なる充実を図ります。

進んでいます “山口モデル” スマート“ライフ”シティ

DX (デジタルトランスフォーメーション)

IT・デジタルを徹底的に活用することで、例えば、手続を簡単にしたり、買い物や乗り物をもっと便利にしたり、地域や事業者の生産性を向上させ、社会の在り方を変革することです。ディーエックスと読みます。



04 子育てしやすいまちへ

母子健康アプリ



母子健康手帳を補完する、無料で利用可能なスマートフォンアプリです。子育て情報の配信や、子どもの予防接種のスケジュール管理が可能となり、その情報を家族で共有できるなど、妊娠から出産、育児まで子育てをサポートします。

本市では、子どもたちの生きる力を育むために、学習活動の更なる充実やデジタル化を進めています。こうした中で、市立小中学校の児童生徒に一人一台のパソコンを配備し、小中学校の授業で使えるデジタル教科書、A・ドット教材の導入を進めています。また、デジタル技術を活用して子どもたちの自由な発想や多

角的な視点での考え方を育てるために、YCAMと連携した先進的な体験学習や、まちじゅうで読書が可能となるような取り組みを実施するなど、学校以外でも学べる環境づくりを進めます。さらに、デジタル技術を活用して、子どもの健やかな成長に向けた情報をもれなく提供できる仕組みや、小中学校と保護者との連絡手段のデジタル化、子育て世代の方が仕事を休まずに子育てに関する手続が可能となる取り組みなどを行うことで、子育てしやすいまちづくりを進めていきます。



市内全域へ光ファイバを整備促進

Society5.0時代は、高速大容量のデータが行き交います。こうしたデジタル社会を支えるインフラ整備として、市内全域で光回線の利用が可能となるように、令和2年度から光ファイバの未整備地域での整備を進めています。

シェアサイクル



市内13か所にあるサイクルステーションで、自転車をレンタル・返却できます。観光はもちろん、通勤やちょっとした買い物、お出かけ等にぜひご利用ください（令和3年12月末まで実証中）。

ご利用はこちらから



02 災害に強いまちへ

近年、広域的な土砂災害や水害等の大規模災害が頻発している中、本市では、デジタル技術を活用して、災害に強いまちづくりを進めています。具体的には、地域交流センターにおける電力確保や情報発信強化など、地域防災機能を強化します。また、「無人航空機（ドローン）」を通じて、災害現場映像を災害対策本部がリアルタイムで把握できる現場中継システムによる、要救助者の迅速な救出体制の構築を図ります。さらに、医療や介護、子育てなど、多分野での情報のデジタル化を進めることで、被災時の暮らしの速やかな復旧、復興を図る仕組みづくりなど、強靱な防災体制の構築に向けた取り組みを進めていきます。

災害対応力の強化



地域交流センターに太陽光パネルと蓄電池を設置することで、災害時に停電が発生した場合でも、電力の確保が可能となり、照明や通信機能を維持し、スマートフォン等の充電もできるようになります。また平常時には環境にやさしい再生可能エネルギーの利用につなげます。そこで、本市と「西日本電信電話株式会社山口支店」「NTTアノードエナジー株式会社」の3者で覚書を締結して、企業の資金を活用して地域交流センターに太陽光パネルと蓄電池を設置し、地域防災機能の強化に向けた実証事業を進めています。

05 デジタル行政の推進

窓口 × デジタル

スマホで混雑状況を確認。
もう待たなくていいんです。



手続き × デジタル

電子ペンでサイン。
何度も書かなくていいんです。

これまでの市役所は「今どのくらい混んでいるのか、行ってみたいとわからない」という状態でした。市民の皆さんの中には「市役所に行ってみたら大混雑していて、手続きが終わるまでにずいぶん時間がかかった」という経験をされた方もおられると思います。

事前に混雑状況が分かるため、混雑を避けて来庁でき、待ち時間を短縮することができます。

さらに、窓口到着後に受付番号の発券をすませることで、現在呼び出し中の番号を確認できるので、混雑する待合室を避けて駐車場の車の中で待機したり、待ち時間に買い物をしたりと、時間の有効活用をすることができます。

※1 山口総合支所市民課、小郡総合支所総合サービス課

例えば転入手続きの際、これまでであれば、住民異動届に氏名・生年月日等、多くの項目を書いていたが必要がありました。

また、こうした転入手続きなどの住民異動手続きには、住民票の写しの請求や、国民健康保険の申請を同時にするケースも多く、市民の皆さんの中には「何度も名前や住所を記入してうんざり」した経験がある方もおられるのではないのでしょうか。

そんな市民の皆さんの負担を少しでも軽減するため導入(※2)した



電子ペンでサインする様子

のがタブレットを活用した届出システムです。

これは、転出元の自治体が発行する転出証明書を専用の装置で読み取ることで、タブレット上で届出書類を作成することができる、という優れモノです。手続きは、タブレットに表示されている完成書類を確認し「電子ペンでサイン」していただくだけ。これで、転入手続きの届出と関連手続きの申請書作成が完了します。

他にも、マイナンバーカードや運転免許証のICチップを読み取って、名前・住所・生年月日等の情報を自動印字することで申請書の作成を支援するシステムを、3月中旬に導入(※3)する予定としています。

※2 山口総合支所市民課のみ
※3 山口総合支所市民課、市民税課 および小郡総合支所総合サービス課

市政情報 × デジタル

らくらく操作で
欲しい情報が見つかる！
山口市 LINE 公式アカウント

より早く、より手軽な方法で、暮らしに役立つ情報を市民の皆さんにお届けするために、スマートフォンアプリ「LINE」の「山口市 LINE 公式アカウント」を開設しています。

また、今年2月にリニューアルし、より見やすく使いやすいデザインへの変更や、オンライン学習機能を追加したほか、交通に関する情報や移住定住情報を確認できるようにしました。

ぜひ友だち追加して、これらの便利な機能をご利用ください。

友だち追加は
こちらから！

●アカウント名
山口市
●LINE ID
@yamaguchi-city

二次元コード



ごみ分別チャットボット



チャットボットとは、「チャット」と「ロボット」を組み合わせた言葉で、AIを活用した自動会話プログラムのこと。

山口市 LINE 公式アカウントでは、AIを組み込んだコンピューターが、ごみの分別方法を対話形式で24時間いつでも教えてくれます。

私は、DX、デジタル技術の本質は、市民一人ひとりが豊かな日々を過ごすための手段であると考えています。

これからは、DXが進めば、通勤時間が縮まることで、子どもと関わる時間が増えたり、山口の豊かな自然や温泉を楽しんだり、そして、いつまでも健康でいきいきと過ごせることが可能になると考えています。

また、こうしたデジタル社会において、今まで以上に若者が活躍してほしいとも考えています。

そのためには、デジタル技術を手段として活用する人材育成が重要であり、あわせて、光ファイバなどデジタル技術を支えるインフラ整備を早急に進める必要があります。

こうした考えのもと、地域や事業者と連携して、スマートシティの実現に向けて全力で取り組んでいきます。

message

